

第4学年〇組 道徳学習指導案

指導者 ○〇 ○〇

- 1 主題名 大切な友達 中学年2一(3) 信頼・友情
資料名 「ないた赤おに」 (学習研究社)

2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、行動範囲の広がりとともにお互いのことが分かり始め、交友関係も広がりを見せかけている。また、友達が、大切な存在であることは理解できている。しかし、相手の気持ちを考えることより、自分の思いを押し通そうとする姿もまだまだ見られる。これは、自我の目覚めに伴い、自己主張が活発になり、友達の気持ちを考えるということより、自分の思いを伝えたいという自己中心的な心が働きがちになるからだと考える。

そこで、相手の立場にたって考えることの大切さについて理解ができるようになるこの時期に本主題を取り上げ、友達同士、互いに理解し合い、信頼して助け合おうとする心情を育てることは意義深いと考える。

- 本主題は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことを主なねらいとしている。この「友達と互いに理解し、信頼する。」ということは、児童の友達作りの基盤となるものであり、そこから助け合う友情が生まれてくると考える。しかし、日常生活の中では、自分の思いが一番になりなかなか相手の思いまで考えきれない場面も多くある。

そこで、自分の立場からだけで友達を見がちな児童に、相手の立場に立つことや双方向から考えるという視点を与えることが大切となる。このことが、互いに励まし合い助け合い、ともに向上していく生き方につながることに気付かせることは、大変意義深いと考える。

- 本資料は、村人と仲良くなりた一心で行動してしまう赤おにが、日が経つうちに、自分のために尽くしてくれた青おにのことに気づき、深く心を動かしていくという話であり、赤おにと青おにのお互いを思う気持ちから、真の友情を考えさせるのに適した資料である。

本時指導にあたっては、赤おにの心情に視点をあて、青おにの気持ちを知り涙を流す赤おにの気持ちを考えていく中で、ねらいとする価値に迫っていきたい。導入では、児童に「自分にとって友達とはどんな存在なのか」を想起させていく中で、本時のめあて「友達を大切に作る心について考えよう。」へと、つないでいく。展開1では、赤おにの心情に視点をあてて考えさせる。まず、人間と仲良くなりたくてたまらない赤おにの心情を、しっかりと理解させ、その上で赤おにが、どんな気持ちで青おにを殴ったのかを想像させる。さらに、青おにからの手紙を読んで涙を流す赤おにの心情を、役割演技を通して読みとらせ、自分のことは犠牲にしても、赤おにの幸せを願う青おにの姿から、本当に友達を大切にすることとはどういうことなのかを考えさせていく。展開2では、自分のことを我慢して、友達の気持ちを考えて行動したり、優しくしてもらった経験振り返り、価値を自覚できるようにする。終末では「友達」に関するビデオを見ていく中で、友達を信頼し助け合おうとする意識の継続を図る。

3 本時のねらい

友達同士、互いに理解しあい、信頼して助け合おうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成21年 11月25日(水) 第5校時 第4学年〇組教室において

- 5 準備 資料「ないた赤おに」、拡大挿絵、道徳ノート、言葉のカード、お面、音響BGM、ビデオ「友達」

